

ワークショップ 1 開催日時：7月30日（土） 13:00～14:20

「“できる！”を引き出すお手伝い」

演者：伊藤麻衣（国立研究開発法人 国立成育医療研究センター チャイルドライフスペシャリスト）

小児診療の中で私たち医療スタッフの役割とはなんでしょうか？子どもたちの“できる！”を引き出し、子どもたちをはじめとしてご家族や医療スタッフが心地よく安心して過ごすためのヒントはどこにあるのでしょうか？

医療チームの一員としてチャイルドライフスペシャリストの視点や実際の活動・取り組みをご紹介しますながら私たちの役割について小児診療にかかわる様々な職種のみなさんと一緒に改めて考えられるようなワークショップにできればと考えています。

みなさん自身が日々お仕事をされている中でうれしかったこと、ほかにどんな方法があったのかな？と感じたこと、心に思い浮かべながらぜひご参加ください。

ワークショップ 2 開催日時：7月30日（土） 13:00～14:20

「Triple P～前向き子育てプログラム：すべての家庭のために」

演者：藤田一郎（福岡女学院大学人間関係学部子ども発達学科）

大河内美和（トリプルP インターナショナル 認定トレーナー）

- 保護者が経験する子育ての難しさ、その原因について考える
- Triple P の原則・技法のいくつかについて紹介し、練習する
- 保護者の子育て技術向上を助けるファシリテーターのコミュニケーション技術を紹介し、練習する

参加者の皆さんには、積極的に話し合いやロールプレイに参加していただきます。

参加のために必要な教材や資格等は特にありません。親からの子育てについてよくある質問や、皆さんが対応に苦労したり戸惑ったりする子育ての悩みの例がありましたら、是非ワークショップ中に発表してください。話し合いやロールプレイを通して皆さんと一緒に考えてみたいと思っています。

参考図書：トリプルP～前向き子育て 17 の技術～（診断と治療社、2010）

ワークショップ3 開催日時：7月30日（土） 14:30～15:50

「現場で役立つヘルスコミュニケーション」

演者：杉原 桂（ユアクリニック御茶ノ水）

サッカーチームやオーケストラがもっともその真価を発揮するのは、それぞれのメンバーがすべて活躍し、お互いの調和・連携が取れている時だろう。では、あなたの職場ではそれと同じように運営されているだろうか？

今回のワークショップでは私たち医療者が向かうべきゴールでそこに至るための具体的ヒントを体験を通じて学んでいくことを目的としています。

・参加の心構え

情報の「入力・出力」として、学校時代は「読み・書き」の訓練が中心に行われてきました。そして社会にでると重要なのは「聴く・話す」という能力です。ここでは体験型ワークショップを通じて、聴く力、話す力を磨くという意図をもって参加すると学びも深まるでしょう。

・参加のために必要なもの

とくに有りません。

ワークショップ4 開催日時：7月30日（土） 14:30～15:50

「スウェーデン発！“タクティール®ケア”を知り、体験しませんか？」

演者：木本明恵（㈱日本スウェーデン福祉研究所）

タクティールケアは背中や手足をやさしく触れるケアです。半世紀前より、スウェーデンで行われていたケアです。はじめは看護師が未熟児のケアに取り入れたことからです。ケアを受けた乳児は泣くことが少なくなり穏やかに過ごしました。体重の増加、体温の安定などケアを受けた乳児にはよい結果が多くみられるようになりました。その後、乳児から高齢者、医療の必要な人から健康な人など様々な場面で活用されるようになりました。

ワークショップでは、タクティールケアのご紹介と参加者の皆様と共にタクティールケアの体験をします。特別なご準備の必要はありませんが、動きやすい服装でご参加ください。

ワークショップ5 開催日時：7月30日（土） 16:00～17:20

「気づきが身体を楽にする！（フェルデンクライスメソッド）」

演者：山際英男（都立東部療育センター 作業療法士）

「座る・立つ・歩く」、これらの姿勢と運動を私たちはどのように獲得するのでしょうか？赤ちゃんは生後1年をかけて頭を上げる、転がる、座る、這う等色々な姿勢と運動を遊びながら探索していきます。直線的に運動を学習するのではなく、多様な選択肢を試す事で、最適な姿勢と運動が自己組織化されるのです。フェルデンクライスメソッドは、赤ちゃんのように多様な選択肢を試しながら身体を動かし、自分自身の使い方を学ぶ心と身体の方法です。自分自身の使い方を再認識することで、きっと子ども達の動きが違って見えるようになるでしょう。マットの上で寝転びます。動きやすい服装でご参加ください。

ワークショップ6 開催日時：7月30日（土） 16:00～17:20

「障がいのある子どものきょうだい支援」

演者：小林保子（鎌倉女子大学 児童学部 教授）

阿部美穂子（北海道教育大学 教育学部 教授）

石上志保（世田谷区立総合福祉センター 言語聴覚士）

障がいや病気のある子どものきょうだいを対象としたケア、その必要性は十分認識されていますが、具体的な取り組みはまだまだ少ないのが現状です。今回は、アメリカ、イギリスにおける障がいのある子どものきょうだいのための取り組み、そして日本のきょうだいケアの現状をお話ししたあと、日本で行われているきょうだいのための支援プログラム例を体験していただきます。子どもたちを丸ごと受けとめ寄り添うきょうだい支援の実際をご経験いただき、自分が大切にされていると感じること、受容される喜びを味わうことの必要性を実感していただければと思います。全国にきょうだい支援の輪が広がりますように！

ワークショップ7 開催日時：7月31日（日） 9:00～10:20

「ポジティブな行動の変化を生み出す！ABA療育ワークショップ」

演者：熊 仁美（特定非営利活動法人 ADDS）

自閉症スペクトラム障害の療育において高いエビデンスを示している応用行動分析（ABA）の理論をベースにしたワークショップです。障害体験をしながら、お子さんへの効果的な注意の引き方や指示の出し方、ほめ方などを学ぶことができます。

・参加の心構え

チームでディスカッションをしたり、大人役、子供役に分かれてロールプレイをしながらワークを進めていきます。

積極的にご参加ください。

ワークショップ 8 開催日時：7月31日（日） 9:00～10:20

「体感！ソーシャルスキルトレーニング（SST）！！」

演者：安住ゆう子（NPO フトゥーロ LD 発達相談センターかながわ）

発達にアンバランスさをもつ人たちは状況理解や他者の視点に立つこと、自分の感情を相手に分かりやすく伝えることなどに困難さを持つことが少なくありません。社会の中で互いが分かりあい、歩み寄るための社会性の指導、ソーシャルスキルトレーニングを体験します。今回は主に小学生と中学生を対象としたワークシートとゲームによる指導をいくつかご紹介します。必要なものは筆記用具のみです。意図的に人とのかわりを学んでいくSSTとはどんなものか、発達障害を持つお子さんに関わる方で、その実際をご存じない方は是非ご参加ください。

ワークショップ 9 開催日時：7月31日（日） 10:30～11:50

「病児のアセスメントを深めよう！」

演者：江頭則子（病児保育センターぱるむ 看護師）

帆足暁子（世田谷子どもクリニック 臨床心理士）

病児保育は、子どもが感染症などの病気に罹った時、一日も早く健康回復できるよう「保育看護」という専門分野で子どもとその家族を支援しています。「保育看護」では、子どもの病状やその病状により影響している事、年齢や発達、その他子どもを取り巻く全ての環境から総合的に病児を捉え、ケアに繋げていかなければなりません。このワークショップでは、実際の事例をもとに、病児の身体面、心理面、保護者支援など配慮すべき点を抽出、アセスメントを深め具体的なケアを導き出す作業をグループで行います。最終的には病児の「全体像」を図式化して表し共有します。病児保育の現場で働く保育士さん・看護師さん、又、病児保育に興味がある方は是非ご参加ください。

ワークショップ 10 開催日時：7月31日（日） 10:30～11:50

「ムーブメント教育・療法」

演者：大野正純（東京都立東部療育センター 保育士）

ムーブメント教育・療法は、子ども（対象者）の自主性、自発性を尊重し、ストレングスを活かし、動きを通して「からだ（動くこと）」「あたま（考えると）」「こころ（感じること）」の全面発達を支援します。従来の体育遊びや体育指導ではなく、また、医学療法を中心とした治療訓練ではないため、現在は多くの領域で使われています。更に、独自のアセスメント（MEPA-R、MEPA-II R）はPDCAサイクルとして展開されます。ムーブメント教育・療法は、関わる誰もが喜びと充実感を実感できるので、実際に遊具に触れて、身体を動かし、究極のゴールである「健康と幸福の達成」を体験していただければと思っています。

ワークショップ 11 開催日時：7月31日（日） 13:00～14:20

「一人ひとりの育ちを支えるおもちゃ……“遊び”を考える」

演者：宍戸信子（子どもと育ち総合研究所 主任研究員）

子どもの「頭・心・身体」をバランスよく丈夫に育てるのは“遊び”であり、その世界を広げる道具が“おもちゃ”です。たかが遊び・たかがおもちゃと侮るなかれ。遊びは学び・文化への扉・社会との出会い・世界への翼、そして自尊心という心の基礎石をつくります。

遊びに寄り添うおとなの意識が、おもちゃの力を最大限に引き出します。子ども一人ひとりが自分のペースで育っていくために活かされるおもちゃという「モノ」の本質・遊びを再発見してみませんか？おもちゃの持つ力の広さ・深さ、そして考え方を学びあいましょう。

ワークショップ 12 開催日時：7月31日（日） 14:30～15:50

「読み書き・漢字学習支援」

演者：小池敏英（東京学芸大学特別支援教育）

漢字の読み書きの習得には、ワーキングメモリなどの認知情報処理の発達と共に、ひらがな文字等、基礎スキルの学習の両側面が関与し、この両者の関係は、学年によって変化します。読み書き障害児を対象として学習支援臨床を行う場合には、文字学習の基礎スキルと認知情報処理の関係について、対象児の特徴をアセスメントし、それに対応した教材や配慮を行うことが大切です。本ワークショップでは、文字学習の基礎スキルと認知情報処理に関するアセスメントについて説明し、その結果を教材に反映させる手続き、また学習支援の手続きについて、臨床的理解をはかります。参加には、読み書き障害児の学習支援の経験が少しでもあることを望みます。